令和６年６月17日

御取引先様　各位

ＪＡ全農山形
園芸部園芸販売課

山形県産さくらんぼの出荷状況について

当県本部の園芸事業につきましては、日頃より格別なるご協力を賜り厚くお礼申しあげます。
さて、標記の件につきまして、下記のとおり報告いたします。今後の取り扱いにつきましも、ご理解とご協力を賜りますようお願い申しあげます。

記

1．生育・出荷経過

（1）山形県さくらんぼ作柄調査委員会が５月21日に発表した令和６年産の作柄は、昨年夏の高温の影響で双子果の発生が多く、また、開花期の高温乾燥により雌しべに花粉がつきにくかったことなどから、予想収穫量は「平年よりやや少ない」とされました。

（2）無被覆佐藤錦については、出荷開始期の５月最終週から６月初旬の連続した降雨により、各地で裂果によるロスが発生したことから出荷数量は大きく減少しました。また、雨よけ佐藤錦でも裂果や割れが確認されました。

（3）雨よけ佐藤錦は８日頃より収穫が本格化しましたが、６月10日週になると、例年同様に産地ギフト向けとの並行出荷となり、増量ペースは鈍い状況となりました。なお、出荷開始期より想定以上に生育、熟度が進んでいることから、生産者に対しては、早期収穫と厳選出荷を促してきました。

（4）そうしたなか、「佐藤錦」における本年の収穫最盛期の６月11日以降、急激な気温上昇に見舞われ、日中の最高気温が30℃を超える日が約一週間継続しており、果実の熟度がさらに進行することとなりました。

（5）こうした気象経過から、果実体質の劣化（品質低下）が顕著に表れており、生産者段階での収穫・出荷ロス（商品化率の低下）が多発しているため、ＪＡへの出荷量が減少に転じています。

（6）また、晩生品種の「紅秀峰」については、受粉環境が優れず、当初から不作を見込んでいたところですが、本年の気象条件下で佐藤錦同様に収穫・出荷ロスが発生しています。

（7）産地では先週末から今週頭に増量を見込んでいたところですが、以上のことから出荷量は伸び悩んでおり、今後は漸減していく見込みです。

（8）本年産さくらんぼは過去例にない凶作となっており、出荷実績は昨年対比で50%程度の着地になると見込んでいます。

2．今後について

（1）上記の状況から、さくらんぼ全体の出荷量は減少していきますが、最後まで販売にご協力いただけますよう、よろしくお願いします。

（2）なお、「佐藤錦」については、まもなく満開後60日を経過します。産地段階でも十分な品質確認をおこなってまいりますが、流通段階での確認についてご配慮いただくようお願いします。

初夏の味覚である「さくらんぼ」を心待ちにされていたお客様には大変申し訳ございませんが、気象経過による商品化率の低下に伴い、必要な数量をお届出来ない状況にあることにつきまして、心よりお詫び申しあげます。

以　上